

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2393300088		
法人名	社会福祉法人 なごみの郷		
事業所名	グループホーム なごみの郷 あやめ		
所在地	愛知県蒲郡市柏原町加治替戸3番地1		
自己評価作成日	令和5年10月5日	評価結果市町村受理日	令和6年2月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyouvoCd=2393300088-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和5年10月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナの影響もあり自由に外出やご家族と会う事ができない日々が続いていますが、できるだけストレスにならない様にレクリエーションとして食事やおやつと一緒に作ったり、外食気分を味わって頂ける様に施設の食事ではなく、利用者の要望を聞きテイクアウトの食事提供を毎月行っています。
また、残存機能を活かし、たたみ物やテーブル拭き等の軽作業を依頼し役割をもっていただく事でやりがいや生きがいを感じて頂ける様に、支援しています。
今年度のGHの目標である「DREAMES COME TRUE (夢が叶う)」をテーマに利用者のやりたい事、行きたい所、食べたい物を日常の会話等から情報収集し、一人ひとりがグループホームでの暮らしを楽しんで頂けるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍で多くの制約を受けてきたが、利用者や家族の要望が強い面会は、面会場所の指定や要予約など、制約がありながらも再開している。忘年会や新年会・夏まつりの再開を検討しており、地域との交流・外出支援に前向きに取り組んでいる。
ホームでは、レクリエーション活動や行事に力を入れ、利用者がホームで楽しく暮らしていけるよう支援に努めている。そのために、利用者の意向や思いの把握に努め、実現できるように取り組んでいる。
職員同士や、職員と利用者との関係は良好で、ホーム全体の雰囲気は良い。職員の利用者に対する接し方は適切で、利用者の尊厳を保っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「おだやかな生きるを支えたい」の理念を各ユニットのスタッフルームに提示し意識付けができる様にしている。今年度のキックオフミーティングはコロナ禍によりWeb配信で「DREAMS COME TRUE(夢が叶う)」を目標に取り組んでいる。	ホームの基本理念は各スタッフルームに掲示しており、いつでも確認できる。毎年度、「行動目標」を掲げ、キックオフミーティングで職員に周知している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナが落ち着いた時に地域の方とのランドゴルフやお祭りに参加し交流する機会があった。	コロナ禍もやや落ち着きを見せる中、地域の行事も少しづつ再開しており、祭りやランドゴルフに参加することが出来た。状況を見ながら、コロナ禍以前の取組みの再開を目指している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度は地域の方に認知症の理解に向けて活かすことはなかったが、実習生に向けて活かすことはできた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ対応により情報提供のみとなっていた運営会議も実際に再開され、事業所の取組みだけでなく、地域からの要望や、交流の再開など、サービス向上のため地域の皆様から存分な力添えをいただいている。	運営推進会議は本年4月より対面で実施している。対面で開催することで、情報交換がスムーズに行われ、意見交換の場として活用できている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営会議には必ず市担当者に出席いただき事業所からの情報発信だけでなく、行政側からの情報共有やご指導をいただいている。	運営推進会議に行政担当者が参加しており、情報交換の場として活用している。地域には市内事業所を結ぶネットワークがあり、情報を得ることが出来る。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に2度身体拘束に関する研修を行っている他、3ヶ月に1度各ユニットで身体拘束に関する意識向上を図っている。	身体拘束廃止に向けた取組みとして、年に2回の研修が計画されている。身体拘束廃止委員会が設置され、3ヶ月毎に委員会を開催し、その内容を職員に周知している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	特にスピーチロックに対して事業所内で不適切な対応や声かけがみられ場合、その都度注意しあっている。ユニット会議等で虐待に対し見直す機会があったが、今後も意識し学ぶ機会を増やしていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見人制度を活用している対象者がひとりみえるが、知識がない為学んでいく必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が契約時に説明を行っている。不安や疑問点があればその都度説明を行い理解や納得をして頂けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や電話を使用し気楽に意見や要望を聞くように努めている。また、ご意見受付表や苦情受付簿も置いている。	利用者の意向や思いは、日常の関わりの中で把握するように努めている。家族については、面会時や電話での連絡時に聞き取るようにしている。把握した意向や思いは、介護日誌や申し送りノートに記録している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、ユニット会議を開催し各入所者の状況の把握、処遇面、業務改善、職員の意見を聞く機会を設けている他、普段より職員や利用者の声を聴くよう努めている。	ユニット会議が定期的に行われ、会議内で意見や要望・提案を聞いている。管理者とは、日常的に話をすることが出来る。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	セルフチャレンジシートにより、各年度の個人目標と目標達成に向けたアクション、振り返り等、MBO制度による評価を実施。またM年に2度の面談では、その人の良さに目を向けた面談を実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修には積極的に参加をしており、コロナ前の実績ではあるが、毎年度年間180件を超える外部研修に参加をしており、スタッフ一人一人に合わせ必要だと思われるスキルアップの機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修への積極的な参加は当然ながら、その他に同一法人グループ内の同クラス（役職者、リーダー、スタッフ）が集まった研修を毎月開催し、サービスの質だけでなく組織力強化に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前や入所後、その都度本人による訴えを傾聴し安心されるサービスの提供、できる限りの要望等に沿った支援と関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前より家族が困っている事や不安に感じている事や要望を傾聴し、信頼関係を築き安心して頂ける対応に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が必要としている支援を見極め、特養等必要なサービスの検討も含めた対応をするように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	好きな事や興味のある事等、残存機能を活かし、軽作業を依頼してできる事を継続し行って頂く事で役割を持ち生きがいに感じて頂く様努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で対面面会が中止されている期間以外は、WEB面会や電話を活用し家族と話をされている。毎月、写真を載せて月毎の様子を記入した通信を送っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で外出ができず、馴染みの場所へは行けていないが、携帯電話を所持の方は家族や知人と話され楽しまれている。	家族との関係性を大切にし、良好な関係が維持できるよう取り組んでいる。携帯電話を持つ利用者には、携帯電話を使用して家族等と話ができるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアの共同生活の場での席位置を考慮している。利用者の間に職員が入り利用者同士関わりが持て、孤立しない様に職員が支援している。また、レクリエーションを通し良好な関係が築けるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了されたご家族と出会った際は、挨拶等させて頂き、同施設内の部署へ入所された方は情報の共有や本人に合いに伺っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴や好みを会話の中から把握し、職員同士共有している。本人からの情報が困難な時は、ご家族に情報を頂き生活歴等の把握に努めている。	各利用者には担当職員がおり、日常の会話などから意向や思いを把握するように努めている。家族からも、訪問時や電話で意向や希望を聞くようにし、職員間で共有している。	利用者の意向の把握は、介護計画の作成に当たっての重要な要素であり、今後も継続的な取組みに期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入院前の面談時に本人や家族から話を聞く他、可能であればご自宅の写真等で生活スペースを見させて頂いている。入所後も、本人、家族から話を聞き把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方は、経過記録等に記載し、その日その時の心身状態は直接挨拶や会話から把握し、申し送りや連絡帳で職員同士共有できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	より良く暮らせるよう配慮し職員間で会議を通して話し合い、本人にも意向を聞く機会はあるが、ご家族と満足に話を伺う機会が少なくない。意向に反映した計画書を家族に説明を行っている。	利用者の状況は「経過記録」等に記載し、提供するサービスについて毎月モニタリングを行っている。3ヶ月で介護計画を見直し・更新しており、利用者や家族の意向を反映した介護計画になるよう、検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	チームケアの実践に努めている。常に情報は共有し日々変化する状況を把握しながら実践し、必要時、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍で外出や理容、面会等に制限があるが、季節を感じて頂ける様、食事やおやつレクを充実し、WEB面会、受診等の対応のニーズに応えられる様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在コロナ禍で外出ができず、地域のボランティアもなく、最近では地域での交流場面がなく楽しめていない状況である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設のかかりつけ医があるが、以前からのかかりつけ医で希望があれば施設のかかりつけ医以外の場所での受診にも対応している。希望があれば歯科往診も行っている。	ホーム協力医の月に1～2回の訪問診療がある。かかりつけ医は選択でき、入居前の医療機関を使うことも出来る。看護師の配置はないが、同法人に勤務する看護師が対応可能である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	GH専従の看護師はいませんが、同施設内に併設している看護師に相談し様子を見てもらったり、アドバイスを頂いている。また、異常等がみられれば主治医のいる病院の看護師へ連絡している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際には早期に退院できる様に病院からの情報を家族と共有し病院と連携をとっている。 コロナの影響でお見舞いに行けていない。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に救急対応、終末期の確認をとっている。本人の状態の変化が見られた時はその都度、早期にご家族と話し合い事業所でできる事を支援している。	ホームで看取りを行うことも可能で、入居時に利用者・家族等にホームの方針を説明し、同意を得ている。利用者の状態に変化が見られた場合、話し合う機会をもち、方針を決めて支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時等の内部研修を行い参加している 他、急変時や事故等のマニュアルを作成し全職員で共有している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、その内1回消防署の指導を受け施設全体で避難訓練を行っている。夜間を想定した図面上での訓練も1回行っている。	年に2回の避難訓練を行っている。BCP(事業継続計画)の作成も完了しており、福祉避難所の指定を受け、地域との防災協定も結んでいる。停電に対する備えとして発電機の設置がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	失礼のない声かけを心掛け、分かりやすい言葉や表現を使用している。不適切な声かけ等あれば注意や個人面談を行っている。居室やトイレに入る際はノックをし、利用者がフロアにいる時には、訪室する旨声かけを行っている。	職員は、利用者に対して敬意を持ち、目上の人として対応するように努めている。プライバシーや羞恥心への配慮も怠らず、日常的な会話や、トイレ誘導時の声掛けなどに注意を払っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段より気楽に希望等言えるような環境や関係を作っている。また、会話の中から希望等発見する様に努めている。話をする機会を作って頂く事もあるが、時間を作り傾聴している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活の中で基本的な流れはあるが、個々の生活ペースをできる限り優先している。また、その日の気分や状況で入浴や食事の時間等変更希望があれば希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴準備の際に、利用者と一緒に好みの服を選んだり、毎月の理容でパーマや髪を染め楽しまれている方がみえます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前に口腔体操を行う他、メニューを伝えている。利用者に「いただきます」の声かけを毎食行っている。おやつレクや食事レクで利用者が中心に作り楽しまれている。	利用者には、食事の準備～片付け時、出来ることをやってもらうようにしている。利用者からの要望には、出来る範囲で応えている。食べるのが楽しみの一つとなっており、おやつレクや食レクを実施している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量と水分量の記録を行い水分は1日1500mlを目標に何種類かの飲み物を用意し摂取して頂いている。摂取量の少ない方は栄養士に相談し食事形態や栄養補助食品の提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科往診の先生にアドバイスをもらい、毎食後、口腔ケアを促し、一人ひとりの状態に合わせた歯ブラシや歯間ブラシを使用し、残存機能を活かしてできるところは自己にて行って頂き、困難な方は介助し清潔の維持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者全員が「便座に座り排泄する」を実現している。利用者によりパットの大きさを変えその人に合ったパット等を使用し自立に向けた支援を行っている。必要があれば尿測を行いパットの見直しを行っている。	ホームでは、トイレでの排泄を基本としている。おむつ利用の場合でもトイレに誘導し、利用者の状況にあった排泄用品の選定や、適切な介助の提供に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃から自然排便ができる様に、水分量、体操や散歩等を促し取り組んでいる。排便が5日以上ない場合は下剤を服用して頂いている。起床時にイオンサポートを提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に曜日と時間は決まっているが、入浴される時間や、その時の気分や体調で臨機応変に無理なく入浴して頂く。また、好みに合わせ入浴剤を使用している。	入浴は、週に2回の機会を提供している。その時々、利用者の意向や体調に配慮した支援を行っている。利用者の状態により、同施設内の特養の機械浴を使用することも可能である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中適度な運動を促し、生活のリズムを作るよう支援している。天気のいい日は布団を干したり快適な空調の調整を行っている。日中、傾眠のある方は昼夜逆転のない程度に居室で休んで頂く様声かけを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容は職員が常に把握できるように個々の薬一覧表を作成し見やすくしている。服薬は職員2名で確認し飲み込むまでの確認と見守りを実施している。症状の変化があればすぐに報告し申し送り共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中で一人ひとりができる役割の目標を設定し毎日の日課となっている。また、毎日行うレクリエーションの他に、誕生日会やフラワーアレンジメント等取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響で自由に外出ができていないが、天気良い日は施設周辺や近くの神社へ散歩へ出かけている。	コロナ禍の影響はまだあり、制約はあるが、外出・外食は状況を見ながら再開している。夏祭りはホーム内で行ったが、再開の予定はある。日常的には、ホーム周辺の散歩を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本、現金は利用者に渡されていないが、希望があれば自己にて管理されている方もいる。散歩に行かれた際に近くの自販機でお好きな飲み物を購入されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持されている方は自由にやり取りをされてみえる。ご家族から手紙が届くとお渡ししています。毎月GH通信を郵送し写真と最近の様子をお伝えしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有部は日頃から清掃し気持ちよく過ごして頂けるように心掛けています。毎月、季節の壁紙や飾り、カレンダー等を利用者と作成し、視覚から季節を感じられるよう工夫している。	リビングや廊下などの共有部分は定期的に、また汚れれば随時清掃し、清潔を保っている。季節を感じられる利用者の作品などの掲示物があり、季節感を演出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りにならない様、気の合う方との席の配慮を行い談笑して頂ける空間作りをしている。また、離れた場所のソファに座り、独りで落ち着ける場所も設置してある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使用していた家具や布団、仏壇や食器等使い慣れた物を使用し自宅の雰囲気にならぬよう努めている。看取りの方は、家族のみだが泊まれるようにしてある。	居室への家具や調度品の持込みは自由で、利用者が落ち着いて過ごせるよう工夫している。清掃は共有空間と同様に行われ、手すりの消毒は利用者がリハビリ・トレーニングを兼ねて行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有部の壁沿いには持ちやすい高さに手すりが設置しており、不要なものは置かない様に努めている。また、バリアフリーになっているのでシルバーカーや杖でも動きやすい環境になっている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2393300088		
法人名	社会福祉法人 なごみの郷		
事業所名	グループホーム なごみの郷 さくら		
所在地	愛知県蒲郡市柏原町加治替戸3番地1		
自己評価作成日	令和5年10月5日	評価結果市町村受理日	令和6年2月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigvosyoCd=2393300088-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和5年10月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナの影響もあり自由に外出やご家族と会う事ができない日々が続いてますが、できるだけストレスにならない様にレクリエーションとして食事やおやつと一緒に作ったり、外食気分を味わって頂ける様に施設の食事ではなく、利用者の要望を聞きテイクアウトの食事提供を毎月行っています。
また、残存機能を活かし、たたみ物やテーブル拭き等の軽作業を依頼し役割をもっていただく事でやりがいや生きがいを感じて頂ける様に、支援しています。
今年度のGHの目標である「DREAMES COME TRUE(夢が叶う)」をテーマに利用者のやりたい事、行きたい所、食べたい物を日常の会話等から情報収集し、一人ひとりがグループホームでの暮らしを楽しんで頂けるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「おだやかな生きるを支えたい」の理念を各ユニットのスタッフルームに提示し意識付けができる様にしている。今年度のキックオフミーティングはコロナ禍によりWeb配信で「DREAMES COME TRUE(夢が叶う)」を目標に取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナが落ち着いた時に地域の方とのグランドゴルフやお祭りに参加し交流する機会があった。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度は地域の方に認知症の理解に向けて活かすことはなかったが、実習生に向けて活かすことはできた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ対応により情報提供のみとなっていた運営会議も実際に再開され、事業所の取組みだけでなく、地域からの要望や、交流の再開など、サービス向上のため地域の皆様から存分な力添えをいただいている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営会議には必ず市担当者に出席いただき事業所からの情報発信だけでなく、行政側からの情報共有やご指導をいただいている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に2度身体拘束に関する研修を行っている他、3ヶ月に1度各ユニットで身体拘束に関する意識向上を図っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	特にスピーチロックに対して事業所内で不適切な対応や声かけがみられ場合、その都度注意している。ユニット会議等で虐待に対し見直す機会があったが、今後も意識し学ぶ機会を増やしていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見人制度を活用している対象者がひとりみえるが、知識がない為学んでいく必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が契約時に説明を行っている。不安や疑問点があればその都度説明を行い理解や納得をして頂けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や電話を使用し気楽に意見や要望を聞くように努めている。また、ご意見受付表や苦情受付簿も置いている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、ユニット会議を開催し各入所者の状況の把握、処遇面、業務改善、職員の意見を聞く機会を設けている他、普段より職員や利用者の声を聴くよう努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	セルフチャレンジシートにより、各年度の個人目標と目標達成に向けたアクション、振り返り等、MBO制度による評価を実施。またM年に2度の面談では、その人の良さに目を向けた面談を実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修には積極的に参加をしており、コロナ前の実績ではあるが、毎年度年間180件を超える外部研修に参加をしており、スタッフ一人一人に合わせ必要だと思われるスキルアップの機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修への積極的な参加は当然ながら、その他に同一法人グループ内の同クラス(役職者、リーダー、スタッフ)が集まった研修を毎月開催し、サービスの質だけでなく組織力強化に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前や入所後、その都度本人による訴えを傾聴し安心されるサービスの提供、できる限りの要望等に沿った支援と関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前より家族が困っている事や不安に感じている事や要望を傾聴し、信頼関係を築き安心して頂ける対応に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が必要としている支援を見極め、特養等必要なサービスの検討も含めた対応をするように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	好きな事や興味のある事等、残存機能を活かし、軽作業を依頼してできる事を継続し行って頂く事で役割を持ち生きがいに感じて頂く様努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で対面面会が中止されている期間以外は、WEB面会や電話を活用し家族と話をされている。毎月、写真を載せて月毎の様子を記入した通信を送っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で外出ができず、馴染みの場所へは行けていないが、携帯電話を所持の方は家族や知人と話され楽しまれている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアの共同生活の場での席位置を考慮している。利用者の間に職員が入り利用者同士関わりが持て、孤立しない様に職員が支援している。また、レクリエーションを通し良好な関係が築けるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了されたご家族と出会った際は、挨拶等させて頂き、同施設内の部署へ入所された方は情報の共有や本人に合いに伺っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴や好みを会話の中から把握し、職員同士共有している。本人からの情報が困難な時は、ご家族に情報を頂き生活歴等の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入院前の面談時に本人や家族から話を聞く他、可能であればご自宅の写真等で生活スペースを見させて頂いている。入所後も、本人、家族から話を聞き把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方は、経過記録等に記載し、その日その時の心身状態は直接挨拶や会話から把握し、申し送りや連絡帳で職員同士共有できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	より良く暮らせるよう配慮し職員間で会議を通して話し合い、本人にも意向を聞く機会はあるが、ご家族と満足に話を伺う機会が少ない。意向に反映した計画書を家族に説明を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	チームケアの実践に努めている。常に情報は共有し日々変化する状況を把握しながら実践し、必要時、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍で外出や理容、面会等に制限があるが、季節を感じて頂ける様、食事やおやつレクを充実し、WEB面会、受診等の対応のニーズに応えられる様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在コロナ禍で外出ができず、地域のボランティアもなく、最近では地域での交流場面がなく楽しめていない状況である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設のかかりつけ医があるが、以前からのかかりつけ医で希望があれば施設のかかりつけ医以外の場所での受診にも対応している。希望があれば歯科往診も行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	GH専従の看護師はいませんが、同施設内に併設している看護師に相談し様子を見てもらったり、アドバイスを頂いている。また、異常等がみられれば主治医のいる病院の看護師へ連絡している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際には早期に退院できる様に病院からの情報を家族と共有し病院と連携をとっている。 コロナの影響でお見舞いに行けていない。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に救急対応、終末期の確認をとっている。本人の状態の変化が見られた時はその都度、早期にご家族と話し合い事業所でできる事を支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時等の内部研修を行い参加している他、急変時や事故等のマニュアルを作成し全職員で共有している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、その内1回消防署の指導を受け施設全体で避難訓練を行っている。夜間を想定した図面上での訓練も1回行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	失礼のない声かけを心掛け、分かりやすい言葉や表現を使用している。不適切な声かけ等あれば注意や個人面談を行っている。居室やトイレに入る際はノックをし、利用者がフロアにいる時には、訪室する旨声かけを行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段より気楽に希望等言えるような環境や関係を作っている。また、会話の中から希望等発見する様に努めている。話をする機会を作って頂く事もあるが、時間を作り傾聴している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活の中で基本的な流れはあるが、個々の生活ペースをできる限り優先している。また、その日の気分や状況で入浴や食事の時間等変更希望があれば希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴準備の際に、利用者と一緒に好みの服を選んだり、毎月の理容でパーマや髪を染め楽しまれている方がみえます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前に口腔体操を行う他、メニューを伝えている。毎日のメニューを記録されている方もみえる。おやつレクや食事レクで利用者が中心に作り込まれている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量と水分量の記録を行い水分は1日1500mlを目標に何種類かの飲み物を用意し摂取して頂いている。摂取量の少ない方は栄養士に相談し食事形態や栄養補助食品の提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科往診の先生にアドバイスをもらい、毎食後、口腔ケアを促し、一人ひとりの状態に合わせた歯ブラシや歯間ブラシを使用し、残存機能を活かしてできるところは自己にて行って頂き、困難な方は介助し清潔の維持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者全員が「便座に座り排泄する」を実現している。利用者によりパットの大きさを変えその人に合ったパット等を使用し自立に向けた支援を行っている。必要があれば尿測を行いパットの見直しを行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃から自然排便ができる様に、水分量、体操や散歩等を促し取り組んでいる。排便が5日以上ない場合は下剤を服用して頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に曜日と時間は決まっているが、入浴される時間や、その時の気分や体調で臨機応変に無理なく入浴して頂く。また、好みに合わせ入浴剤を使用している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中適度な運動を促し、生活のリズムを作るよう支援している。天気のいい日は布団を干したり快適な空調の調整を行っている。日中、傾眠のある方は昼夜逆転のない程度に居室で休んで頂く様声かけを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容は職員が常に把握できるように個々の薬一覧表を作成し見やすくしている。服薬は職員2名で確認し飲み込むまでの確認と見守りを実施している。症状の変化があればすぐに報告し申し送り共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中で一人ひとりができる役割の目標を設定し毎日の日課となっている。また、毎日行うレクリエーションの他に、誕生日会やフラワーアレンジメント等取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響で自由に外出ができていないが、天気良い日は施設周辺や近くの神社へ散歩へ出かけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本、現金は利用者に渡されていないが、希望があれば自己にて管理されている方もいる。散歩に行かれた際に近くの自販機でお好きな飲み物を購入されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持されている方は自由にやり取りをされてみえる。毎月GH通信を郵送し写真と最近の様子をお伝えしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有部は日頃から清掃し気持ちよく過ごして頂けるように心掛けています。毎月、季節の壁紙や飾りを利用者と作成し、視覚から季節を感じられるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りにならない様、気の合う方との席の配慮を行い談笑して頂ける空間作りをしています。また、離れた場所のイスに座り、独りで落ち着ける場所も設置してある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使用していた家具や布団、食器等使い慣れた物を使用し自宅の雰囲気に近づけるよう努めている。看取りの方は、家族のみだが泊まれるようにしてある。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有部の壁浴いには持ちやすい高さに手すりが設置しており、不要なものは置かない様に努めている。また、バリアフリーになっているのでシルバーカーや杖でも動きやすい環境になっている。		